

氏名	岸井こずゑ	部署	健康開発学科	職名	准教授
研究分野	微生物学, 臨床微生物学, 感染制御学				
学位	博士 (医学)				
学歴	1998年東京医科歯科大学医学部保健衛生学科卒業, 2008年順天堂大学大学院医学研究科感染制御科学博士課程修了				
経歴	1998年東京大学医学部附属病院 臨床検査技師, 2005年Public Health Research Institute (New jersey, USA) リサーチフェロー, 2008年北里大学北里生命科学研究所 研究員, 2011年東京大学大学院医学研究科 特任助教, 2014年東京工科大学医療保健学部 助教, 2018年埼玉県立大学保険医療福祉学部 准教授				
所属学会 (役職)	日本臨床微生物学会 (評議員, 国際委員, 精度管理委員), 日本感染症学会, 日本化学療法学会, 日本臨床検査学教育学会, 日本臨床衛生検査技師会				

【2024年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作(著書及びその他の著作物)						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌 雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	該当なし					
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者 (発表者は○印)	発表等年月	
1	埼玉県内の下水におけるESBL産生大腸菌およびMRSAの分離状況	共同	第97回日本細菌学会総会、札幌市	○村井美代、村山浩基、滝野景、菅原庸、于連升、鹿山鎮男、久恒順三、岸井こずゑ	2024.8	
2	埼玉県下下水由来カルバペネマーゼ産生 Escherichia coliの疫学的解析	共同	第18回日本臨床検査学教育学会学術大会、新潟市	○滝野景、于連升、鹿山鎮男、菅原庸、菅井基行、村井美代、岸井こずゑ	2024.8	
3	COVID-19パンデミック下とその後における下水由来ESBL産生 Escherichia coliの薬剤耐性遺伝子型の比較検討	共同	第52回埼玉県医学検査学会、さいたま市	○一瀬夏菜、滝野景、于連升、菅原庸、鹿山鎮男、村井美代、岸井こずゑ	2024.12	
4	下水由来および臨床由来ESBL産生 Escherichia coliの遺伝子型の比較	共同	第52回埼玉県医学検査学会、さいたま市	○鈴木優菜、一瀬夏菜、滝野景、于連升、布施川岳人、村井美代、岸井こずゑ	2024.12	
5	埼玉県の下水由来MRSAの毒素遺伝子保有状況について	共同	第52回埼玉県医学検査学会、さいたま市	○後藤美楓、村山浩基、前田遥香、平川乃朱、胡翔子、久恒順三、岸井こずゑ、村井美代	2024.12	
6	当センターで分離されたMRSAのTSST-1及びPVL遺伝子保有状況	共同	第52回埼玉県医学検査学会、さいたま市	○布施川岳人、櫻井優莉、松本莉歩、森田恭介、村山浩基、後藤美楓、岸井こずゑ、村井美代	2024.12	
7	臨床由来および下水由来PVL保有MRSA株の比較	共同	第52回埼玉県医学検査学会、さいたま市	○村山浩基、久恒順三、菅原庸、于連升、鹿山鎮男、岸井こずゑ、村井美代	2025.2	
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等	発表者 (発表者は○印)	発表等年月	
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称	研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間		
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究C)	埼玉県内の臨床および下水から分離したESBL産生大腸菌の解析	研究代表者	2021.04~2026.03		
2	新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業	アジア諸国と協調して展開する Advanced One Health Tricycle Project	研究分担者	2023.04~2026.03		

3	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）	埼玉県内の下水および臨床由来CPEの動向調査と薬剤耐性遺伝子伝播の評価	研究代表者	2025.04~2030.03
3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	臨床微生物学Ⅰ	○	15	医学領域で重要となる微生物について、各微生物の特徴となる生物学的・科学的な性質に加え、その微生物が原因となる臨床事例を提示し、理解を深めることができた。
2	臨床微生物学Ⅱ	○	8	ヒトの感染症の原因として重要なウイルスについて、その総論と各論を講義した。ウイルス性感染症についての最新の知見を交え、学生の興味をかき立てるよう工夫した。
3	医療安全管理学	○	8	医の倫理、医療安全、臨床検査技師が行う検体採取について講義を行なった。また、具体的な臨床事例を多数活用した講義を展開するため、各分野の専門家にご講義いただく機会を設けた。
4	臨床検査概論		1	臨床微生物検査の概要について講義を行った。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	臨床検査基礎演習		8	臨床微生物学、特に感染制御に関する分野の基礎的な演習を行なった。
2	臨床微生物学演習	○	8	臨床微生物学実習で行った培養検査に引き続く形で直接塗抹標本検査および抗酸菌検査、さらに真菌検査と薬剤耐性遺伝子検査を行い、臨床微生物検査の理解をさらに深めた。
3	医療安全管理学演習	○	8	適切な検体採取法とその接遇について、また検体採取に伴う危険因子と起こりうる合併症について理解するよう講義と実習を行なった。具体的な臨床事例を活用した講義を展開するため、専門家にご講義いただく機会を設けた。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	臨床微生物学実習	○	24	3年次学生を対象に、臨床において実際の微生物検査を滞りなく行うことができる基礎の習得を目標として模擬検体を用いた実習を行った。
2	微生物学実習		24	2年次学生を対象に、微生物検査における基礎的な手技の習得を目標に、個々の学生に対して細やかな実技指導を行った。
3	遺伝子染色体検査学実習		4	4年次学生を対象に、Multiplex-PCRによる薬剤耐性遺伝子の検出を行い、Multiplex-PCRの利便性や注意点を理解すると共に、遺伝子型と表現型を関連づけて考えることができるよう工夫した。
4	ヒューマンケア体験実習		2024.04~09, 2025.02（施設での感染症蔓延により実習延期）	当該実習は1年次学生が入学後初めて行う学外実習である。学科を越えたグループ編成であったこともあり、学生は様々な不安を抱えていた。その不安軽減のため、細やかな説明を心掛けた。施設側での感染症蔓延により実習が2月に延期となったグループがあった。
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2024.04-2024.12	主指導 4名	副指導 名
2	修士論文	2023.04-2025.03	主指導（指導教員） 1名	副指導（指導補助教員） 2名
3	修士論文	2024.04-2026.03	主指導（指導教員） 名	副指導（指導補助教員） 1名
4	修士論文	2024.04-2027.03	主指導（指導教員） 名	副指導（指導補助教員） 1名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	該当なし			

4. 社会貢献活動			
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師			
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ 開催年月
1	高校出張講座（東京都立雪谷高校）	株式会社TAP	感染症と微生物検査 2024.09.18
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等			
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期
1	日本臨床微生物学会	評議委員	2015.2-現在
2	埼玉県臨床検査技会	臨床検査技師養成校連絡協議会委員	2019.4-現在
3	埼玉県臨床検査技会	微生物研究班員	2020.4-現在
4	埼玉県臨床検査技会	査読委員	2020.4-現在
(3) ジャーナリズムでの発言			
	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		
(4) その他			
	項目	相手方等	内容 期間
1	該当なし		
5. 学内運営			
	項目	内容	期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	地域連携委員会	2020.4-現在
2	学科等における委員会等	臨地実習担当	2024.4-現在
3	大学広報活動	オープンキャンパス	2018.4-現在
4	学生支援	学年担任	2018.4-現在
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	該当なし		